



東久留米の近代史シリーズ 5

武蔵野鉄道東久留米駅（9）

東久留米駅の発展・3

学園農村の誕生

1919 年（大正 8 年）の「大学校令」の施行により、小学校から大学までの日本の教育制度がほぼ整い、さらに大正デモクラシーに代表される民主・自由化の影響もあって新しい私立学校の設立や女子教育の充実が重視されるようになりました。この新しい教育の風は昭和初期には久留米村にも及び、村の教育環境は大きく姿を変えてゆきます。その主な要因として、当時の久留米村は純農村地帯として川や緑に恵まれ、変化に富む豊かな自然と比較的平坦な土地が広がり、まさに武蔵野の典型的な景観を呈していたことが挙げられます。そして、武蔵野鉄道と東久留米駅が存在です。1922 年（大正 11 年）には池袋～所沢間が電化され、交通の利便性はさらに増しました。この自然環境と東久留米駅の存在が学園農村を誕生させたのです。



昭和 10 年代前半の久留米村と教育施設

地図は 1 万分 1 地形図「前沢」部分（昭和 14 年・大日本帝国陸地測量部）・国土地理院・文字追加

1929 年（昭和 4 年）に大字門前（現大門町一丁目）の浄牧院境内に久留米村で初めての私立学校である「浄牧学園女学校」が開設されました。さらに昭和 5 年から 9 年にかけて「自由学園」が雑司ヶ谷（現豊島区）から大字南沢（現学園町一丁目）に移転し、広大な敷地をもつ学校が誕生しました。また、1932 年（昭和 7 年）には大字南沢（現中央町一丁目）に 1 万 6 千坪の「拓殖大学総合運動場」が開設しました。

一方、公立学校施設も久留米村に次々に設置されます。1935 年（昭和 10 年）に大字前沢の小学校内に久留米青年学校（同 12 年に東京府に移管し大字南沢に新築）、同 11 年には大字野火止（現野火止二丁目）に病弱児童のための「東京府立久留米学園」、同年に大字小山（現氷川台一丁目）には自然体験道場として東京府豊島師範学校の「成美荘」が開設されたのです。このように昭和初期にはさまざまな教育機関が久留米村に集中し、久留米村はあたかも学園村のような様相を呈していました。

女子教育のための「浄牧学園女学校」、規模の大きな「自由学園」、広い平坦地が必要な「拓殖大学総合運動場」、健康に良い環境が必須の「府立久留米学園」、林間学校的な性格をもつ「豊島師範成美荘」と、さまざまな要件を満たすことができる環境が当時の久留米村にはあったことが分かります。学園農村ともいふべき特異な教育環境が昭和初期の久留米村に出現し、連綿とその伝統を維持しながら教育を実践しているのです。



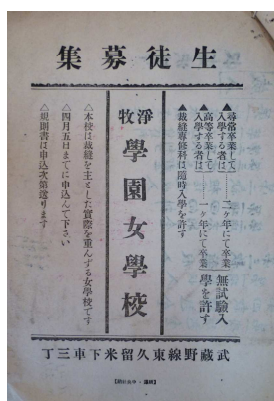
写真 1 浄牧学園女学校 1929 年撮影

1929 年（昭和 4 年）に浄牧院境内（現大門町一丁目）に開設された高等女学校で、あわせて現代の短大にあたる女子工芸学校も開校しました。浄牧院提供



写真 3 自由学園 1934 年撮影

1930 年（昭和 5 年）から 34 年にかけて雑司ヶ谷より南沢（現学園町）に移転。約 3 万坪（約 9.9ha）に及ぶ広大な敷地に当時の建造物が多く残っています。自由学園提供



生徒募集

浄牧学園女学校の生徒募集の案内・浄牧院提供



写真 2 浄牧学園女学校空中写真

本堂の左側の建物が浄牧学園女学校。1955 年米軍撮影空中写真（USA-M1277-10 部分）・国土地理院



写真 4 東京都指定有形文化財（自由学園）

2022 年 3 月、遠藤新氏が設計した女子部の校舎群のあるエリア一帯が、東京都有形文化財に指定されました。食堂・講堂・教室（4 棟）・体操館とそれらの関連施設と敷地です。また、初等部食堂と男子部体育館は東京都選定歴史的建造物です。自由学園提供

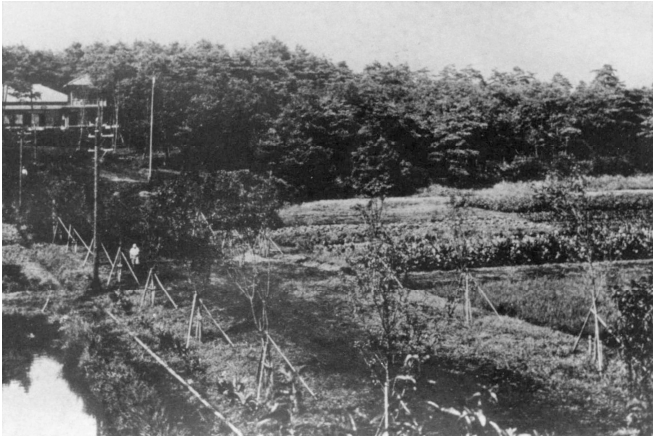


写真5 豊島成美荘 1936年撮影

1936年（昭和11年）に東京府豊島師範学校が小山（現氷川台一丁目）設立した野外研修施設で、約2万5千坪（約8.2ha）の敷地に水田・畑地・農場・養魚池などがあり、養気閣という宿泊所も建設されました。（『沿革』より）

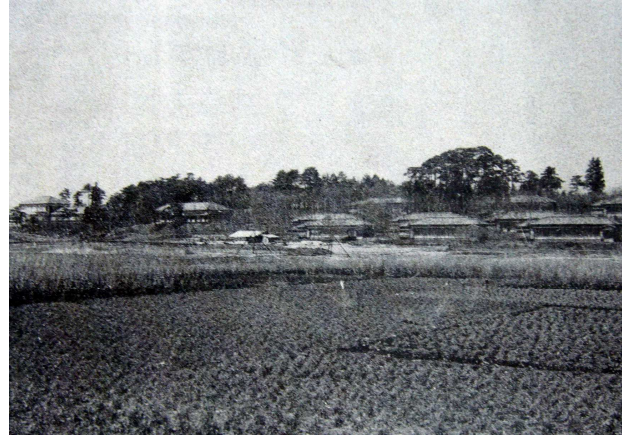
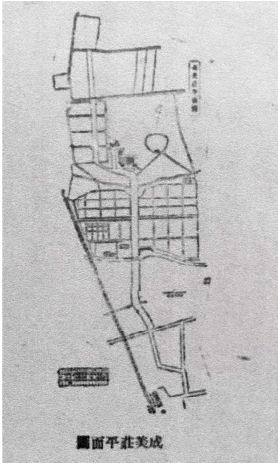


写真7 東京府立久留米学園 1936年撮影

1936年（昭和11年）に東京府が野火止（現氷川台二丁目）に開設した身体の弱い児童のための療養教育施設。約2万3千坪（約7.6ha）の敷地に本館や9棟の寮が建設され、尋常小学3年以上の児童が入園しました。（『久留米学園と史蹟』東京府刊より）



成美荘平面図

『沿革』東京府豊島師範学校刊・1940年（昭和15年）より



久留米学園地図

1万分1地形図『前沢』（昭和32年・地理調査所）部分・国土地理院



写真6 拓殖大学総合運動場

1947年米軍撮影空中写真（USA-M380-107・部分）・国土地理院。1931年（昭和6年）に南沢（現中央町一丁目）に開設した約1万6千坪（約5.3ha）の総合運動場です。撮影時は日立総合運動場となっていました。写真右が北。



写真8 東京府立久留米青年学校

1947年撮影

久留米青年学校は、1937年（昭12年）に多摩地域では唯一東京府に移管されて豊島師範学校が所管し、新校舎が南沢（現中央町一丁目）に建設されました。この校舎は戦後久留米中学校となりました。（『久留米中学校創立20周年記念誌』より）

文責・山崎 丈（東久留米市文化財保護審議会委員）

第36回多摩郷土誌フェアに参加しました



▲当市ブース付近

郷土誌フェア頒布数 TOP5

1	東久留米の近代歴史文書
2	東久留米の戦争遺跡
2(同数)	東久留米の古地図
4	ふるさとマップ
5	東久留米の学校史

令和6年1月20日(土)、21日(日)に立川市女性総合センターアイム1階ギャラリーにて、第36回多摩郷土誌フェアが開催され、東久留米市のブースでも刊行物の頒布を行いました。

特に、新刊の『東久留米の近代歴史文書』をはじめとするライブラリーシリーズの『東久留米の戦争遺跡』、『東久留米の古地図』、『東久留米の学校史』を多くの人に手に取っていただきました。また、東久留米の文化財を中心に市の歴史を知ることができる『ふるさとマップ』も人気です。

市の刊行物は、年に一度の郷土誌フェアのほか、郷土資料室窓口と市役所2階の生活文化課でも頒布を行っています。また、郵送での頒布も可能です(書籍代に加え、送料分の切手もしくは送料の着払いが必要になります)。料金は本によって異なりますので、ご希望の方は郷土資料室までお問い合わせください。

令和5年度 文化財防火デー ～村野家住宅で消防訓練が行われました～

文化財防火デーとは、昭和24年(1949)1月26日、奈良県法隆寺の金堂で発生した火災によって壁画が焼損したことをきっかけに始まった文化財防火運動です。1月と2月は1年のうちで最も火災が発生しやすい時期でもあり、昭和30年、当時の文化財保護委員会(現在の文化庁)と国家消防本部(現在の消防庁)が1月26日を「文化財防火デー」と決めました。消防演習などを通じて火災の備えとするとともに、文化財愛護の意識高揚を図るため、昭和30年の第1回文化財防火デー以来、全国各地の文化財所在地で防火訓練等が実施されています。

2023年度(令和5年度)の文化財防火デーは、国登録有形文化財である村野家住宅で消防訓練が行われました。東久留米市内での消防訓練の実施は、令和元年度の浄牧院以来4年ぶりです。東久留米消防署の方々をはじめ、関係者など約40名が参加・見学を行いました。



編集・発行

東久留米市郷土資料室(東久留米市教育委員会生涯学習課文化財係)

203-0033 東京都東久留米市滝山4-3-14 東久留米市わくわく健康プラザ内

電話 042-472-0051 無断転載はしないでください